千鳥會報

発行所
岡山県立笠岡高等学校
同窓会
岡山県笠岡市笠岡3073の2
事務局
☎ 0865 (62) 5128
印刷
㈱ 正文社印刷所

笠岡三校再編に想う

同窓会会長　浅野　和志

笠岡高校同窓会千鳥会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。いつも笠岡高校同窓会の活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

笠岡工業の数年の定員割れにより、母校「千鳥」も笠岡商業と共に三校が統合され、新たな高等学校として生まれ変わることを前提とした再編整備アクションプランが遂にスタートしました。これまでそれぞれが歩んできた歴史や伝統を胸に、一つの学校として新しいスタートを目指すことになります。

私たちにとって「千鳥」という名前や歴史、校歌、思い出はかけがえのないものです。この決定に戸惑いや寂しさを感じる卒業生も多いかと思います。しかし、これは商業、工業の卒業生も同じ思いだと思います。

少子化の時代に定員割れだけを理由に統合してしまうルールに少し違和感は覚えますが、時代の流れの中で母校が形を変えながらも前に進んでいくことは、きっと未来の後輩たちにとっても大きな意味を持ち、私たちが百年以上受け継いできた精神や誇りは、新たな学校へと確実に引き継がれていくと信じています。

三校が過去にこだわらず、それぞれの伝統を尊重し、この節目を前向きに捉え、普通科と専門学科がただ一つになるだけでなく、それぞれの長所を活かすのはもちろんのこと、新しい学科創設等、今までにない笠岡が誇れる新しい高校になることを期待しています。

令和元年の千鳥会報にも書きましたが、「伝統とは革新の連続」です。昔では考えられなかったことが今の当たり前になり、今、考えられないことが、将来の当たり前になり・・・の繰返しで伝統が築かれていくものです。関係者の皆様には後ろ向きの議論ではなく、前向きに革新を受け止めた議論を進めていただきたいと思います。

千鳥同窓生として新校の新たな歴史を共に見守り、支えていきましょう。

どうかこれからも変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

ごあいさつ

校長　西村　能昌

笠岡高等学校同窓会千鳥会の皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。今春の人事異動で、小寺邦彦前校長の後任として着任いたしました。岡山県南西部の名門校である笠岡高校に勤務させていただくことを大変ありがたく思っています。

さて、本校は令和三年に創立一二〇年を迎え、今年度で創立一二四年目を迎えました。本校の学校教育目標は、「志高く自らの人生と社会の未来を拓く人を育てる」です。この目標のもと「未来開拓力」の涵養を目指し、「総合的な探究の時間（ＡＣＴ）」を核として、教科活動や特別活動を往還した体系的なキャリア教育を推進しております。この綿密なキャリアプログラムも奏功し、本年も多くの卒業生が志望校への合格を果たしました。今春の卒業生一四九名のうち、九八名が国公立大学に合格いたしました。その割合は約六六％に達し、記録が残る昭和五四年以降、最高の合格率を更新いたしました。

近年の普通科改革が進む中で、各高等学校においては、その魅力化・特色化が喫緊の課題となっております。そうした中で本校は、「未来開拓型カリキュラム」を充実させ、少人数・習熟度別の授業やＩＣＴの利活用等を通じて、生徒一人ひとりのニーズに応じた個別最適な学びを展開しております。ＧＩＧＡスクール構想に基づき導入いたしました生徒一人一台端末であるｉＰａｄの活用も進んでおり、授業において紙媒体のノートに代えてデジタルノートを活用する生徒も増加の一途を辿っております。また、昨年度からは国の事業である高等学校ＤＸ加速化推進事業、いわゆるＤＸハイスクール事業の指定を受け、昨年度末に最新機器を備えたＤＸルームを整備いたしました。今年度からは本格的にその活用を進めて参ります。

一方、令和七年三月に県立高等学校再編整備アクションプランが発表され、笠岡市内の公立高校三校が、今後、再編統合され、新たな高等学校として生まれ変わることとなりました。開校時期や設置場所、学科につきましては、県教育委員会や関係高等学校、地元自治体等で構成されるプロジェクトチームで検討されることになっていますが、千鳥会の皆様からも忌憚のない御意見や御要望を賜りたく存じます。

再編整備をはじめ、今後、真摯に向き合わざるを得ない課題もありますが、これまで諸先輩方が築き上げてこられた輝かしい伝統を継承しつつ、新しい時代が求める資質・能力の育成に向けて、教職員一丸となって千鳥の新しいステージを創造して参ります。千鳥会の皆様におかれましては、今後とも変わらぬ御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

東京支部より

私の履歴書

東京支部長
（昭和五十七年卒）佐藤　琢

平成三十（二〇一八）年に渡邊一洋現名誉支部長より支部長を引き継ぎ、コロナ禍にて平成元、二年と開催見送りの期間を含め、毎年五月最終土曜日に支部総会を開催継続しています。本年も品川にて、約六十名の参加者で大いに盛り上がりました。感謝申し上げます。

私は昭和六十一年青山学院大学を卒業、米国のカーギル日本支社に就職しました。創業百六十年の歴史あり、世界六十七カ国千百拠点に十四万人の従業員を擁する、穀物メジャーと呼ばれる企業です。穀物が主力の中で非鉄金属部に配属、昭和六十三年末に投資運用部門に異動となり、平成二年から本社ミネアポリスでの勤務を含め、二十三年の外資サラリーマン生活を体験しました。

投資運用部門では様々な証券商品投資を経験しましたが、最も長く担当し、退社まで携わったディストレス（不良債権）投資のお話をします。平成九年に日本で最初のバルクセール（債権と担保不動産を一括売却）を当時の東京三菱（現、三菱ＵＦＪ）銀行から買取しました。債権担保の不動産評価方法として、米国の主流である収益還元法に基づき、算定を行いますが（現在は主流の鑑定法）銀行の期待する評価額を大きく下回り、何度も会議中断し取引断念も想定されました。大手銀行や証券会社が破綻する中、不良債権比率を下げなければ、健全性を回復出来ず、売却取引となりました。この取引以降、金融機関の不良債権処理が加速、債権評価方法の定着や事業再生の法律も施行、Ｊリード上場の礎ともなったのです。金融市場の歴史的転換の取引に携わった事は今でも誇りです。

近畿支部総会報告

近畿支部
（昭和五十五年卒）狩野　ゆき

二〇二四年九月二十九日（日）に第二十九回千鳥会近畿支部総会が、新大阪ワシントンホテルプラザにて開催されました。栗尾典子笠岡市長、小寺邦彦校長、浅野和志同窓会長、松原善東京支部幹事、三宅一也事務局を来賓に迎え、昭和三十九年卒から平成三十年卒までの三十名の参加がありました。

総会に先立ち、全員での記念撮影ののち、第一部では物故者への黙祷、校歌斉唱、近畿支部長挨拶、校長及び同窓会長からの来賓挨拶、そして議事へと会が進められました。議事は二〇二三年度会計及び庶務報告、会計監査報告、事業報告が行われ、最後に二〇二四年度の役員が紹介されました。

第二部は懇親会で、昭和五十五年卒（大森律子、狩野ゆき、河田興一、藤本美名子、山口由紀）が当番年次として担当しました。

笠岡市長及び東京支部幹事からの来賓挨拶をいただき、陶山英志名誉支部長の乾杯のご発声ののち、高校時代を懐かしむ今昔スライド（運営委員作成）や現在の笠高の紹介動画、笠岡市ＰＲ動画を鑑賞しながら歓談しました。オリジナル挿画（山口作）入りの総会資料も好評でした。あっという間に時間が過ぎ、恒例の「ふるさと」斉唱で閉会となりました。

先輩から⇒ ⇐後輩から

笠岡高校は人生の礎

昭和四十七年卒
坂本　恵子

桜の花も散り葉桜となった頃、久しぶりに笠岡高校の坂を登りました。

友に誘われて同窓会千鳥会総会運営委員会の初顔合わせの為です。遠い昔に入学した時の窓の外の桜はそのままでした。半世紀以上昔の事ですが、笠岡高校は変わっておらず懐かしく迎えてくれました。

現在の千鳥会館に足を踏み入れたのは初めてで、玄関の楠戸宇亨先生の五連の書に釘付けになりました。六十歳から書道を始めて宇亨先生にご指導して頂いて十年が経ちました。上達しているかどうかは疑問ですが、精神統一できて達成感があります。

思い出せば、高校の時は成績が悪かったものの、読書にだけは没頭していました。それと山岳部で、登山とスキーと楽しい思い出は尽きません。

今、人生も終盤に差し掛かり、自分のこれまでを振り返る時が増えています。普通に考えれば、後十年位は健康で過ごしたい。やりたいことは沢山あり、今まさに時間との闘いです。

数年前に友達数人で『千鳥仲良し組』を結成し、食事会で思い出話に花を咲かせています。何年を経ても高校の友は宝物です。

最近、笠岡高校の統合が報じられていますが、出来れば母の女学校時代からの千鳥会が末永く続いて、次世代に継承される事を願っております。

不思議な、そして貴重な縁

昭和五十七年卒
今井　明

笠岡高校を卒業後、岡山を離れ、日本や海外を転々としました。奈良に家を構え、岡山に戻るとは思いもしませんでしたが、二年前に縁あって岡山大学で産学官連携の仕事を始め、四十一年ぶりに岡山県民を楽しんでいます。

「大学の知で地域に貢献する」という仕事を考えた時、自分にとっての地域とは、やはり他でもない岡山でした。産学官連携の活動を広げるうえで、千鳥同窓会のネットワークは貴重で、四十一年の時を感じさせません。同級生の会社へ共同研究を提案したり、笠岡市役所とのイベントを企画したりもしました。

昨年度、笠岡高校が文部科学省の「ＤＸハイスクー

↑ウラ面に続きます。

ル」に採択されたことを知り、岡山大学の野上教授による生成AI講義を一年生向けに企画・実施しました。市役所や母校の教員に同級生がいることも心強いです。

今後も千鳥同窓会の縁を活かし、地域貢献に力を尽くしたいと考えています。

出会ってくれてありがとう

平成七年卒　薮田　誠二郎

千鳥に関わる皆さん、後輩の皆さんへ。このお手紙を読んでもらえて嬉しく思っています。私は千鳥を卒業してからずっと県外に出ていました。香川大学大学院を中退して、カバン一つでインド・ネパールを放浪、帰国後は不登校の子たちと向き合ったり、その後は日本中で筆を握り一人ひとりに詩を届けてきたり、少し変わった人生となりました。

「出会ってくれてありがとう」という想いで全国出版もさせてもらいました。

先輩風を吹かせて申し訳ないですが、今、よかったら「出会ってくれてありがとう」と伝えさせてください。どうせ出会うなら、せっかく同級生でいるのなら、大切に思ってほしいのです。自分のことをどう思っているでしょうか。どんな自分でいても、ずっとこの自分でがんばってきたはずです。どうか、自分を大切にして、自分だけはいつもよき理解者でいてあげてください。そして、自分に後悔のない人生を送ってください。これは、ずっと自分自身にも伝えてきました。何歳になっても同じですよね。

私は二年前に地元笠岡に戻ってきました。戻ってきて心からよかったと思えます。地元を好きでいてください。好きになれるよう大切に生きてあげてください。また千鳥会でお会いできるなら幸せです。後悔のない高校生活を過ごせますよう心から願っています。

文武両道を通して

平成十七年卒　成石　祐一

「普通科で大学進学を目指しながら、春高バレーに出場したい。」

これが、笠岡高校に入学したときの私の決意です。中学時代に体験でバレー部に行かせていただき、入学を決めたことを覚えています。意気揚々と入学したのですが、バレー部は部員が少なく、悩みも多々ありました。結果は県大会ベスト8で、目標は達成できませんでした。しかし、目標に向かう中での学びは大きな財産です。それは、文武両道と人とのつながりの大切さです。予習復習に追われながら朝練に取り組み、行き帰りのバスで英単語を覚える日々を過ごし、時間を大切にする姿勢が身に付きました。また、仲間や先生方との出会いも大きな財産です。クラスでは、日が暮れるまで練習した千鳥祭の応援合戦や合唱練習で絆が深まりました。そして、日本史の授業で社会科の面白さや深さを知り、教員になりたいという思いがより強くなりました。

現在、縁あって笠岡市内や近隣の中学校で勤務させていただく機会が多く、恩師の先生方と再会させていただく機会もあります。どの先生方も温かい声をかけてくださり、会うたびにパワーをいただきます。

母校で学んだ文武両道の姿勢や、人とのつながりの大切さを教え子に伝えたり、人にパワーを与えられたりするような人になれるよう、これからも努力していきたいです。

写真を通して

平成二十七年卒　小林　悠理夏

中学卒業後、合格祝いに買ったのは、親友が持っていて憧れていたLumixのミラーレスカメラでした。当時は高校生のスマホ所持率がまだ六割ほど。わが家では「スマホ代は自分で稼げ」という方針だったため、このカメラが私の高校生活の相棒となりました。

そのレンズ越しに見た高校生活はいまも鮮明で、写真を見返す時間は、思い出に触れる豊かなひとときです。たとえば千鳥祭のあと、体は疲れていたはずなのに、撮った写真を見ていると不思議と元気が湧いてきたのを覚えています。クラスメイトの、普段は見せない真剣な表情や一生懸命な姿に、何度も胸を打たれました。

いろんな人がいて当たり前。それぞれの「今」をそのまま刻み込む写真を通して、同級生への親しみや絆が自然と育まれていきました。だから、この同窓会を機に、八年ぶりにまた集えることにやりがいを感じています。

今の私は、ひょんなきっかけから写真に関わる仕事に就きました。日々、高校生たちのまっすぐな姿に励まされながら、その一瞬一瞬をしっかりと残さなければという使命感とともに奮闘しています。当時の私と今、対面したとしたら「なんで!?」と驚くでしょうが、きっと今の私を認めてくれると思います。

写真は、時間が経つほど価値を増す「宝物」です。過去も今も、写真を通じて心をつなぎながら、誰かの未来を支える一枚となるような時間を残していけたらいいなと思っています。千鳥を通して出会えた先生とのご縁や、友人たちとの時間が、今の私の生きていくエネルギー源です。今を生きる千鳥生たちにとっても、そんな日々が紡がれていくといいなと思います。写真と共に。

笠岡高校マスコット「チドリン」

私の「支え」となる笠岡高校

令和七年卒　安田　和紗

この春、私は笠岡高校を卒業し、あっという間に二ヵ月が経ちました。高校生活を振り返ると、本当に多くの人に支えられていたことを実感します。友達や先生方がいつも寄り添ってくれ、特に受験期は、その支えを強く感じました。思うように結果が出ず落ち込んでいた私に、担任の先生をはじめ、たくさんの先生が声をかけてくださったり、相談に乗ってくださったりと、本当に心強い存在でした。

高校時代、私が特に頑張ったのは、勉強や部活動に加え「広報活動」です。三年間、母校訪問やオープンスクール、学校説明会などに参加し、笠岡高校の魅力を伝える中で、自分自身がその良さを再発見できたことは貴重な経験でした。自分の高校を誇りに思えるのは、この活動を通してたくさんの「好き」を見つけられたからです。

四月からは、保育者になるという目標に向けて大学に進学しました。高校とはまったく違う環境で、まだ戸惑うことも多いですが、笠岡高校での経験が私の大きな支えになっています。自分の力だけではなく、ここまで頑張れたのは支えてくれた友達や先生方のおかげです。だからこそ、将来立派な保育者になることで、その恩を少しでも返せたらなと思っています。これからの四年間、たくさん学んで、しっかりと夢に向かって歩んでいきたいです。

部活動報告 R6年度

●書道部
- 高校生国際美術展（書の部）／佳作
- 岡山県児童生徒書道展／特選

●美術部
- 岡山県高校生美術コンクール／金賞・銀賞
- 高梁川流域高校生絵画展／佳作

●サイエンス部
- サイエンスキャッスル研究費2024／アステラス製薬賞
- サイエンスキャッスル2024関東大会／出場

●陸上競技部
- 岡山県高等学校総合体育大会　男子800m／8位
- 岡山県高等学校陸上選手権大会　男子400m／7位　女子400m／7位
- 岡山県高等学校新人陸上大会　男子1500m／4位　女子400m／6位　女子1600mR／6位
- 中国高校新人陸上選手権大会　男子1500m／出場
- 岡山陸上カーニバル　女子1600mR／6位

●卓球部
- 第71回中国高等学校卓球選手権大会（シングルス）／男子出場
- 2024全日本卓球選手権大会（ジュニアの部）岡山県予選会（シングルス）／第8位
- 第43回岡山県高等学校学年別大会（シングルス）／2年男子ベスト8
- 第53回全国高等学校選抜卓球大会岡山県予選会（シングルス）／第1位
- 第53回全国高等学校選抜卓球大会（シングルス）／第5位

●バドミントン部
- 岡山県高等学校バドミントン競技秋季大会学校対抗／ベスト8

令和6年度入試結果

◎国公立大学
大阪3名、名古屋2名、九州1名、筑波1名、神戸2名、金沢1名、静岡1名、岡山14名（医学科1名含）、広島2名、鳥取5名、島根5名、山口5名、香川6名、愛媛10名、徳島2名、高知1名、九州工業1名、大阪公立1名、岡山県立6名、福山市立3名など

合格者合計102名

◎私立大学
明治2名、立教1名、同志社4名、立命館5名、関西3名、関西学院19名、京都産業18名、龍谷5名、近畿13名、ノートルダム清心12名、就実33名など

合格者合計226名

※合格者数には既卒生を含む

＊ 事務局よりお知らせ ＊

ふるさと岡山“学び舎”環境整備事業

母校 笠岡高校の応援をよろしくお願いします。

笠岡高校では、ICT 機器を活用した新たな学びのスペース整備を予定しています。詳細は本校 HP をご覧ください。

＊インターネット申込
ふるさとチョイスの HP →
岡山県 →「ふるさと岡山 “ 学び舎 ” 環境整備事業」
※『笠岡高校』を指定してください。

お申込の流れ

千鳥教育ボランティア募集

笠岡高校では、学校での様々な活動に「千鳥教育ボランティア」としてご協力・ご活動いただける方を募集しています。

詳細はインターネット「笠岡高校　千鳥教育ボランティア」で検索してください。